

近世の街道整備に伴う町並み形成に関する考察

－ 中山道安中地域を対象として－

日大生産工(院) ○佐藤 夏実 日大生産工 永村 景子

1. はじめに

群馬県は現在、県内の高速交通網を補完する7つの交通軸整備が進められており、その1つである西毛軸として、西毛広域幹線道路事業が行われている。前橋市、高崎市、安中市および富岡市を結ぶ延長27.8kmの主要幹線道路のうち、安中市役所周辺は、市の中心部を通過する区間であることから、「風景を魅せるインフラ整備事業」の対象区間となっている。当該箇所は道路拡幅により既存の店舗・事業所・民家等が用地買収の対象となっており、建て替え・曳家等の対応に伴って、町並みが大きく変化することが予想される。また、地域で行われてきた伝統文化や祭りなどが失われるなどの懸念がある。

この地域は、近世には、中山道が整備されており、沿道には宿場や町並みが形成されていた。近世で形成された沿道環境や町並みは、現在の道路や町並み形成を特徴づけており、基盤にもなっている。図1は、国土地理院の基盤地図情報¹⁾を基に作成した対象地域の地図であり、赤線が今回の整備事業で整備される区間、緑線が

中山道を表し、今回の整備は中山道を横切り行われることがわかる。

よって本研究は、近世の中山道・安中宿とその周辺地域である「安中地域」を対象とし、宿場とその周辺地域の村々の町並みや地域文化の形成に関する事項について調査を行う。調査は主に安中市史等の文献を用いた文献調査と、安中市における中山道のルートの把握について、ヒアリング調査を行った。ヒアリング調査については、現地での調査が困難なためメールを用い、安中市教育委員会の方々に行った。

年表²⁾(表1)は、研究対象地の近世における町並みや地域文化の形成に係る出来事を履歴整理したものである。本稿では、安中宿の形成、安中宿や周辺地域の市場の形成、安中藩における祭事について述べる。

2. 街道整備と安中宿の設置

(1) 近世の街道整備と宿場の設置

江戸幕府は、幕藩体制を形成・維持するために、戦国大名の支配国中心の交通経路から江戸

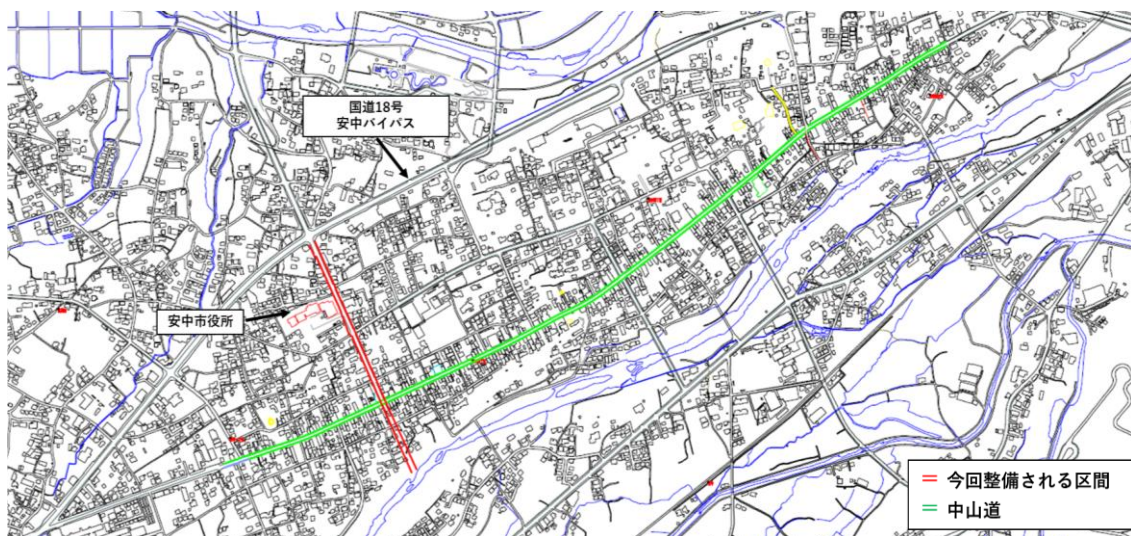


図1 研究対象地

Study on the Formed of Town with the Building of the Nakasen-do Road on Annaka area

Natsumi SATO and Keiko NAGAMURA

表 1 安中地域の近世歴史年表

1602	慶長7	・江戸幕府が安中宿中の伝馬掟を定める ・中山道が整えられはじめる
1604	慶長9	街道の改修と一里塚、並木が植えられる
1607	慶長12	野殿村で検地
1615	慶長20	・井伊直勝が安中藩主になる ・安中原市の杉並木が植えられる ・安中宿内伝馬町に市が開設される ・岩井村に山林乱伐禁止令が出される
1616	元和2	・江戸幕府が再び安中宿中に伝馬掟を定める ・有志が集まり安中の龍昌寺建立を企画 ・野殿村で検地
1617	元和3	中山道九十九次が定まる
1624	元和10	龍昌寺棟上げとなる
1626	寛永3	野殿村で検地
1628	寛永5	上間仁村で検地
1631	寛永8	幕府役人の実地調査により入山道の往来が地元民以外には禁止された
1635	寛永12	参勤交代制確立
1649	慶安2	東上磯部村、下磯部村で検地
1656	明暦2	幕府、安中領村々と西牧領村々との碓氷郡中木山をめぐる山論を裁定
1659	万治2	安中・板鼻両川仮橋がかかる
1661	万治4	日本最初の温泉マーク
1663	寛文3	安中藩主水野元綱が領内の総検地を始める
1666	寛文6	人見堀開削につき磯部3村と人見村との間に約定書
1673	寛文13	・人見堀開削工事が幕府の命で再開され、17日間で完成 ・安中宿伝馬町の市場規定を定める ・野殿村で検地
1685	貞享2	安中藩では、太鼓櫓で正月から「時の太鼓」を打ち始める
1689	元禄2	幕府が主要街道の助郷調査を行う
1694	元禄7	幕府、宿場周辺の村々を定助郷と大助郷に分けて助郷村を指定する
1705	宝永2	安中藩主内藤政森が安中城の改修に着手する
1716	正徳6	諸街道の呼称が定められた
1717	享保2	安中藩主内藤政森が安中宿市場規定を更新する
1726	享保11	安中藩主内藤政森が新開発田畑の検地を行う
1729	享保14	東上磯部村の農民が桑の木保護の約定をなす
1744	寛保3	中宿村・安中宿間の碓氷川渡し場に定仮橋がかけられる
1773	安永2	安中城附42村の「頭村制度」という組織をつくる
1776	安永5	安中宿大火
1783	天明3	浅間山噴火
1790	寛政2	伝馬町市場が不振のため、安中藩が伝馬町以外での売買を禁止する
1813	文化10	中諏訪大明神の夏祭り
1815	文化12	咲前神社の「太々神楽」
1827	文政10	安中宿から熊野神社の祭りについて文書が提出された
1832	天保3	有田屋が創業する
1844	天保15	幕府、中山道原市村の杉並木の調査を行う
1845	弘化2	安中上野尻「愛宕神社」夏祭り
1855	安政2	安中藩主城内から碓氷峠熊野権現まで藩士を走らせる「遠足」を実施
1857	安政4	野殿村の道祖神焼きで、児童3人が焼死する事故が起こる
1861	万延2	皇女和宮が、安中宿で小休、板鼻宿本陣に宿泊する
1862	文久2	安中宿の人々が太給馬を安中の熊野大権現へ奉納する
1870	明治3	諸国街道の本陣脇本陣の名称が廃止される

を中心とした五街道を幹線とする交通経路に改編し、支配を関東から次第に全国的なものに発展させた³⁾。また、街道沿いには宿場が設けられた。近世の宿場は、交通制度上の重要な基礎単位であり、交通施設も整えられた⁴⁾。城下町以外の宿場の場合、一般に街道沿いに1～3村から宿場が形成され、家屋が帯状に連なる形態をしている。また、宿場の中央部には幕府役人や参勤交代の大名など主に武士階級を宿泊さ

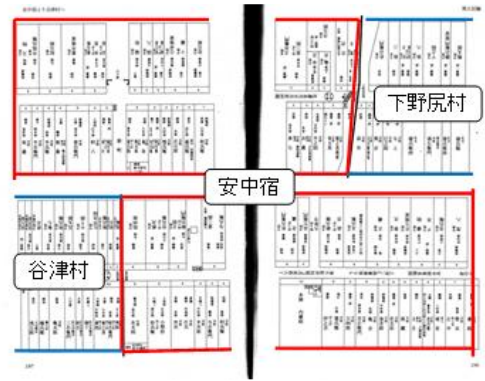


図 2 「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図」の

せる役目を担っていた本陣がおかれた。本陣周辺には旅籠屋などの主要な旅宿や商家が集中し、ここから宿端にかけて茶屋やその他の店舗が並ぶ傾向があった⁵⁾。1870年に、諸街道の本陣・脇本陣の名称が廃止され、1872年に、宿場制度は全国的に廃止された⁶⁾。

(2) 近世の安中地域における街道整備と安中宿の設置

安中地域においても1602年に中山道が整備され始め、街道整備が行われた。

1614年には安中に宿場が設けられ、安中宿の町並みが整えられたとされている⁷⁾。「安中宿」は幕府の交通上の名称であり、安中藩の安中城下町としては伝馬町と称していた⁸⁾。

1800年代中頃の「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図⁹⁾」(図2)によると、安中宿は一般的な宿場町と異なり、両隣には家続きの村があった。図3は、図2を基に、安中宿前後に及んで、家屋が帯状に連なった範囲を模式的に示したものである。安中宿を挟んで江戸側には下野尻村、京都側には谷津村-下野尻村(再)-上野尻村-谷津村(再)において家屋が連なっていた。

近世の安中地域においても、江戸幕府により街道整備が行われ、安中宿が設置された。安中宿は、一般的な宿場と異なり両隣には家続きの村があった。

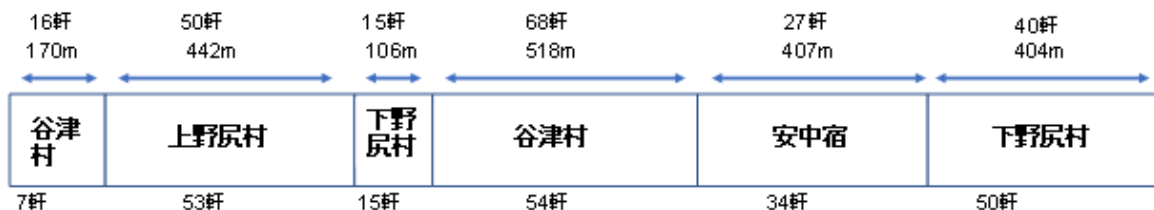


図 3 安中地域の沿道環境の模式図

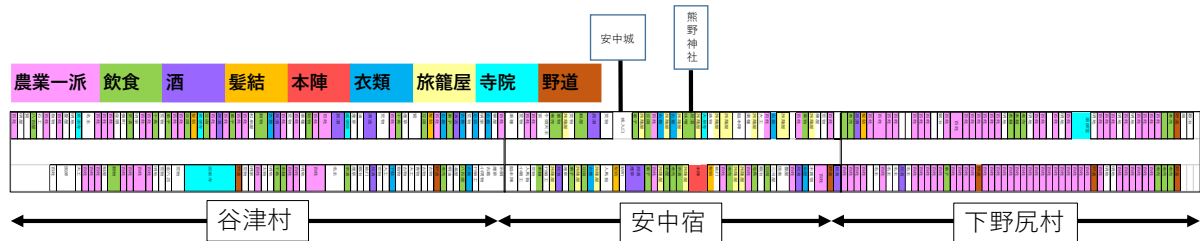


図4 安中宿と両隣の村々の店舗概要

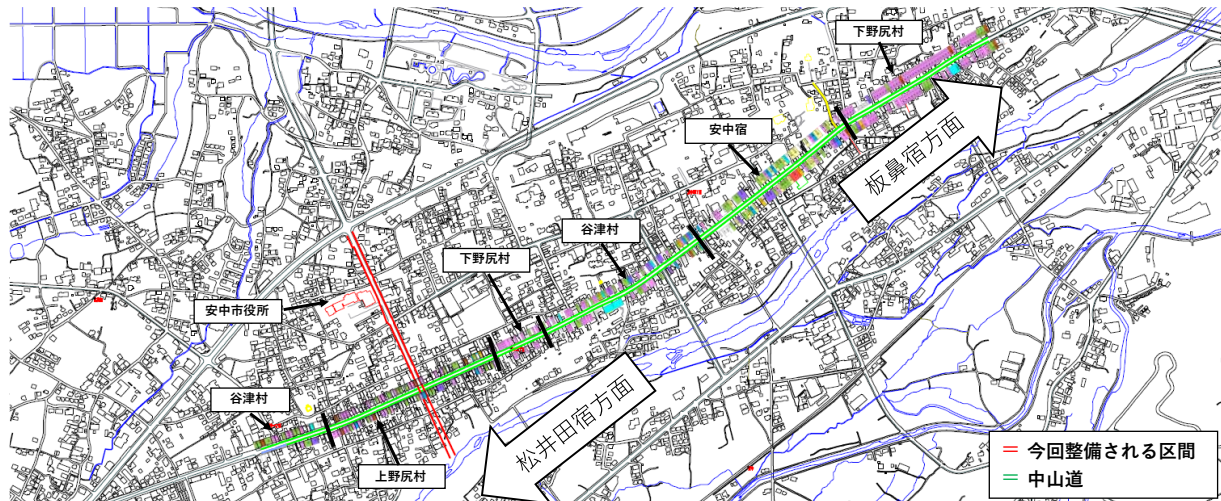


図5 安中地域における店舗の様子

3. 安中宿および周辺地域の市場の形成

(1) 近世の市場について

一般的に、市場(市)とは物資の取引を集中的に行う一定の場所のことである。市場は人の集まりやすい交通の要所や集落の中心地に設定されていた⁸⁾。

(2) 安中地域における市場

近世の安中地域では、1615年に中山道の交通の要所である安中宿(伝馬町)で最初に市場が開設された⁹⁾。1673年には、安中藩によって「伝馬町市町定め」(市場規定)が定められた。安中藩には権力によって市を統括・運営する意図があり、市場以外での売買が禁止された。また、1717年の触書では「古来の通り市場を立て、ことに絹は協売り協買いはまかりならぬ」とある¹⁰⁾。これによると、市場以外での売買、とりわけ絹の売買は禁止するよう命じられた。特に絹は安中宿と他の村々との利害対立が目立った。

1790年には、他の村々などで非公式に行われている取引が増大した。これは、安中宿内の市だけでなく、安中宿の盛衰にも影響するため、安中宿の町民は、市以外の他の場所での取引を防止させることを安中藩に求め、安中藩もこれに応じた¹¹⁾。

(3) 安中地域の商業的活動

安中地域では、中山道沿いに多くの店舗が立ち並び、多様な商品が売買された。1673年の記

録「安中宿本陣文書」によると、売買された商品は、土地の産物として絹・麻・綿・薪等、商人によって持ち込まれたものは、染料・茶・紙・塩等々であった。また1800年代頃の様子は、「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図⁹⁾」にてうかがい知ることができる。図5は「中山道安中宿前後往還五ヶ村家並絵図」をもとに、安中宿と両隣の村の店舗の様子を示したものである。安中宿および周辺の村々の店舗の種類を色分けし、各店舗の間口の広さを横幅で示している。また、図5は、図3、図4を基に近世の店舗配置の様子を現在の地図に表したものである。中山道沿いに店舗が带状に連なっている様子、安中宿には旅籠屋等の宿泊施設が多く立ち並んでいることがわかる。なお、村・宿場の境目は図4より筆者が距離を地図上で測定したものである。上記の図より、安中地域には様々な職種があり、どれも生活必需品を扱う店であったこと、宿場内では、参勤交代で訪れる大名や旅人などが宿泊する旅籠屋や様々な業種の商店が立ち並んでいたこと、周辺の村々では、農民が農業の他に飲食店や衣類品を商売していたこと、がわかる。これらのことより、安中宿および周辺の村々では中山道を通行する武士や、民間旅行者などが多く利用し、利益を得ていたことが推測できる。

安中市史¹²⁾によると、安中宿は前後に家続きの村があったため、宿場の利益になるべき金銭を前後の村々が得てしまい、宿場の収益にならないと不満を漏らしていたとあり、安中宿の前後の村が商品を売買することは、安中宿内の市場の盛衰だけでなく安中宿の盛衰にも影響を及ぼしていたことが読み取れた。安中宿は宿場としての機能をもっていたので、伝馬や大名・旅人の休泊のために力を注ぐ必要があった。そのため、商業的な活動は安中宿よりも他の村々の方が盛んであった。

近世の安中地域では、安中宿内に市場が開設された。だが、宿場内の市場よりも周辺の村々の方が商業的な活動が盛んであり、そのことが安中宿の盛衰にも影響を及ぼしていたことが推測できた。

4. 安中地域における祭事

現在行われている安中地域を代表する祭事である、「あんなか祭り」と「安政遠足侍マラソン」は、近世に端を発する。

安中市史¹³⁾によると、現在の安中市で行われている「あんなか祭り」は、安中熊野神社祭礼である。安中藩領内の総鎮守とされた安中の熊野神社の秋祭りは、安中藩主が見物していたとされる祭りであり、とても豪華であったといわれている。1827年10月に安中宿から提出された文書によると、「安中宿祭礼之儀、毎年九月朔日、二日ニ候得共、神輿渡御并祭礼、・・・古来ヨリ之仕来ニ御座候・・・」とあり、当時も現在と同じく神輿渡御等は、隔年に行われていたこと、各宿村から屋台等を出していたことがわかる。現在、神輿渡御やお祭りは今回の整備事業の対象区域である安中市役所周辺を中心に行われており、今回の整備事業による影響で近世から続いている熊野神社の御神輿渡御等が行われなくなる。

もう一方は「安政遠足侍マラソン¹⁴⁾」である。1855年に、安中藩主板倉勝明が、藩士を城内から碓氷峠熊野権現まで走らせる「遠足(とおあし)」を実施した。1955年に発見された「安中御城内御諸士御遠足着帳」には、走った96人の藩士の氏名・着時刻・着順などが克明に記されており、記録を競う遠足はこれが初めてとされる。

上記より、現在、安中地域で行われている祭事は、近世にも行われており、形を変えつつも継続されている。

5. おわりに

本稿では本研究は、近世の中山道・安中宿とその周辺地域である「安中地域」を対象とし、

宿場とその周辺地域の村々の町並みや地域文化の形成に関する事項について文献調査を行い以下の成果を得た。

- ・ 2章では、近世の安中地域においても、江戸幕府により街道整備が行われ宿場が設置された。安中宿は、一般の宿場と異なり両隣には家続きの村があった
- ・ 3章では、安中宿やその周辺地域では市が形成され百姓や商人の生活圏として成立し、商業的な活動が行われていた
- ・ 4章では、安中地域の祭事は、近世に端を発し、現在も形を変えつつも継続している

以上のことより、中山道沿いでは、宿場やその周辺の村々では商売や祭事など賑わいが形成されており、宿場のみならず周辺の村々の賑わいが大きかったことが推測できる。また、西毛広域幹線道路は、中山道を横切り整備されることから、近世から続く家屋配置の大きな変化が見込まれる。近世から続いている熊野神社の御神輿渡御が行われなくなることが懸念される。今後の課題は、安中地域における近世以降の町並みの変化について調査を行い、中山道安中地域の町並み・沿道環境の変遷、新規道路整備による町並みの大きな変化により考えられる沿道環境への影響を調査することである。

参考文献

- 1) 国土交通省 国土地理院 基盤地図情報サイト (2019)
<https://www.gsi.go.jp/kiban/index.html>
(参照 2021-08-23)
- 2) 安中市史 第二巻 通史編 別冊付録 安中歴史年表 pp34-53 安中市学習の森 2002
- 3) 豊田武 児玉幸多 体系日本史叢書 交通史 山川出版社 1970 p105
- 4) 前掲3) p148
- 5) 前掲3) pp153-155
- 6) 前掲3) p251
- 7) 安中市史 第二巻 通史編 安中市学習の森 2002 p413-
- 8) 前掲7) p514
- 9) 安中市史 第五巻 近世資料編 別冊付録 風土記編 安中市学習の森 2002 pp191-201
- 10) 前掲7) pp515-516
- 11) 前掲7) pp516-517
- 12) 前掲7) p523
- 13) 前掲7) p545
- 14) 「安政遠足侍マラソン」ホームページ(2020)
<https://ansei-toashi.jp/>(参照 2021-07-21)